

令和7年度 認定こども園ふたば「関係者評価」

園名 認定こども園ふたば

基本理念	一人ひとりを大切に、心豊かに、たくましく生きる子どもを育成する
めざす子ども像	・自分のことは自分でする子 ・話をしっかり聞ける子 ・楽しみが見つけれられる子
重点目標	0～2歳児 ①愛情豊かに、安心感・信頼感が持てる保育をする。 ②家庭と連携を密にし、基本的生活習慣の定着を図る。 3～5歳児 ①基本的生活習慣の定着を図り、自立の基礎を育む。 ②遊びを通して、元気な体の基礎づくりをする。 ③身近な自然や人と関わり、心を揺さぶる体験活動を充実させる。（本物の体験） ④物事の善し悪しに気づき、自己抑制する力を育成する。 ⑤友だちと気持ちを通わせ、互いに認め合う仲間づくりを進める。 ⑥子どもの興味・関心を大切に、探求心を育む。 ⑦小学校との連携を促進し、小学校への円滑な接続を図る。（学びの連続性）

自己評価結果（達成状況）【A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	評価項目（取組内容）	取り組み（達成）の状況	達成状況	改善の方策（今後について）
園運営	○職員の資質向上 ○組織体制の充実	○職員研修の充実 ・市教委主催の公開保育等の研修や町保協の各学年研修に計画的に参加した。また、園内研修に指導主事を招聘し、実のある研修会ができた。88%の保育者が自分の課題を持って研修に取り組みたと回答し、園の運営に還元できている。 ○人権擁護のためのセルフチェックリストを活用し適切・不適切保育等について学年単位で定期的に話し合い、職員会議で協議内容を報告し共有した。	A	・キャリアアップ研修に多くの保育者を計画的に参加し、専門リーダー、若手リーダーの育成に努めていく。 ・園外研修での内容を全職員に還元できるように時間等の確保に努めていく。 ・適切・不適切な保育についての話し合いや研修は次年度も継続していく。 ・県の保育協会や市教育委員会の実施する研修会に積極的に参加していく。 ・チームで一歩前へ進める気持ちや、職場を楽しむ意識が持てるよう、明るい職場づくりに努める。
教育課程	○教育・保育課程の作成 ○指導計画の作成・反省並びに発達過程に応じた教育・保育 ○環境を通して行う教育・保育	○特に目指す子ども像の「楽しみが見つけれられる子」に重点を置き子どもの興味・関心を大切にできた。 ○年間指導計画に基づき、発達過程に応じた週案・月案を作成し、適切に評価をしてきた。92%の保育者が次への実践に繋がれたと回答している。 ○豊かな発想で遊びから学びに繋がるように、必要な材料や道具、場所を準備するようになった。	B	・自ら考えて楽しみが見つけれられるように興味・関心を引き出せる環境づくり（制作材料）に努め、探求心を育てていく。 ・子どもの発達状況（月齢等）を踏まえその成長を温かく見守り、保育者自身が「今日は昨日よりも一歩前に進む」意識を持って保育にあたる。 ・教育課程委員会で行事等の進捗状況を把握・確認しながら、行事の改善や精選を図っていく。
子育て支援	○親子の育ち合いの場としての役割や機能の充実 ・すくすくひろば開設、子育て相談、講座等の開設	○「すくすくひろば」を計画通り実施し、目標回数100回を大きく上回った。 ・よい子ネット登録等により、こども園での子どもの様子を啓発できた。また、おすすめ絵本、親子遊び等を情報提供した。 ・子育てについて相談を受け、利用者の100%が不安や悩みを相談できたと回答している。また、利用者の100%が育児の疲れがとれ、心がリフレッシュできたと回答している。 ・外部講師等による子育て講座を実施した。	A	・さらに、色々な親子遊び等の情報を提供したり、保護者間同士のふれあいを大切に相互交流の機会を増やしていく。 ・今後も氷上地域内の「すくすくひろば」の交流を活性化していきたい。 ・新しく導入するアプリ「れんらくーる」への登録を推奨し、給食レシピや子育て支援など内容を積極的に情報提供していく。 ・子育て支援のため、看護師の講話や専門的な外部講師を積極的に招聘していく。
安全管理	○園舎の安全、安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の危機管理能力の向上 ・防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、健康診断、歯科検診の実施 ○安全、衛生管理（給食）	○毎月役割分担をし、園内のチェック項目に従い安全点検をしている。2年毎に専門業者による遊具点検をしている。また毎月避難訓練（火事・地震・不審者・水害）を実施し、あらゆる時間帯を想定し、避難経路を臨機応変に変更している。また、消防本部の署員を招聘し総合避難訓練を実施している。 ○警察、交通指導員による歩行訓練等、交通安全教室を年1回実施している。 ○毎朝健康チェックを実施している。嘱託医による年2回園児健康診断及び年1回歯科検診を行い、その結果を保護者に報告している。 ○「調理室の環境を適切な状態に保持し、常に設備や用具等の衛生管理に努めている」と調理員全員が自己評価しており、安全管理を徹底している。	B	・安全確保のため保育室や園庭に設置した防犯カメラを有事の際に活用していく。 ・安全点検やヒヤリハット報告書を職朝や職員会議で共有し、保育者全員の共通理解を図り、事故防止に努めるとともに、思い込みへの危機意識を持って日々の保育にあたるよう努めていく。 ・保育者の自己評価では「同僚・上司への報告・連絡・相談をしている」項目で73%が「そう思う」と回答している。100%を目指し「報告・連絡・相談」を徹底していく。 ・「れんらくーる」（旧よい子ネット）で毎日病欠（感染等）状況を伝えたり、予防対策、健康管理についてタイムリーな情報を保健日より提供していく。 ・不審者侵入防止のため、ICカードが必要な電子錠や防犯カメラを活用する。 ・アレルギー対策を含め安全安心な給食を提供するため、給食運営委員会を定期的に開催するとともに、調理員の研修会への参加を促進していく。
教育・特別支援	○一人ひとりの特性や発達課題に応じた支援計画の作成と実施 ○専門機関、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	○一人ひとりの特性や発達課題を特別支援コーディネーターを中心に把握し、個に合った個別の指導計画を作成し、個に寄り添った支援をしている。98%の保育者が個々のニーズに寄り添った支援に努めていると自己評価している。 ○市の心理士や保健師による巡回相談や市教委の相談員、特別支援学校のコーディネーターに支援の仕方等の指導を受けている。 ○特別支援教育研修会に積極的に参加している。 ○保護者との共通理解を図るための懇談会を実施している。 ○小学校との連携として、小学校の教員の園訪問や保護者を対象にした小学校長・教員による説明会を実施している。	A	・個別の指導計画を学期ごとに評価し、適切な支援になるよう見直していく。100%の保育者が個々に寄り添った支援ができることを目指す。 ・外国籍の子も含め支援を要する子に対し、市の支援センター職員、療育施設職員、市教委の相談員と連携を一層図り、子どもの困り感をなくす教育・保育を心掛けていく。 ・個別の指導計画等、保護者理解が得られるよう、積極的に相談できる機会を設定していく。 ・進学する小学校の特別支援教育について園と小学校と家庭とが理解を深め、安心して学校生活が送れるよう相談体制を図り、保護者対象の説明会を実施していく。
他校家庭との地域連携	○信頼される園づくり ・情報の発信・受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○地域とのつながり	○信頼される園づくりに向けた情報発信 ・保護者アンケートの「園は、教育・保育方針や子どもの様子などについて情報発信と受信に努めている」では、「そう思う」が88%、「どちらかというそう思う」が11%と回答されており、よい子ネット等、情報発信に高い評価を得ている。 ・保育参観や発表会など子どもの育ちを参観してもらえるよう、できるだけ人数制限をせずに実施してきた。 ○小学校とのスムーズな接続への取組 ・園と小学校が相互に参観し合ったり、園小連絡会、合同研修会を実施したり、教育保育の理解を深め、小学校へのスムーズな接続に努めている。また、小学生との交流会を年間2回したり、学校行事に参加している。保護者アンケートでは98%が連携が図られていると回答されている。 ○地域の豊かな自然とともに ・地域の豊かな自然に触れるため、地域のお寺や神社、山、公園で園外保育を行い五感を養っている。	B	・園運営の理解には、園情報の発信が効果的と考え、よい子ネットに代わり新しいアプリ「れんらくーる」で引き続き、日々の子ども活動や教育保育方針等、幅広く提供していく。 ・行事に対する感想や年2回（7月、1月）の保護者アンケートを踏まえ園運営の改善に努めていく。アンケート回収率90%以上を目指していく。 ・遊びから学びへ円滑に接続できるよう、更に園と学校の連携を深め、アプローチプログラム（園）とスタートカリキュラム（小学校）の改善と、架け橋期カリキュラムに基づき園小の連携を深めていく。また、今後とも園の保育者と小学校の教員による合同研修会を継続していく。 ・コロナ禍以降実施できていない高齢者等との交流会を実施に努める。 ・地域の教育資源（中央図書館等）を活用する。 ・引き続き、氷上町福祉会ふたば担当理事・監事との連絡を月1回実施し、園の様子（職員・園児）や取組について報告し、助言を求めていく。

こども園関係者評価（こども園関係者評価委員より）

・保護者アンケートを見ていると、保護者のわがままが多いように感じる。苦情を言う保護者の意見や思いをまずは傾聴し、対話することで信頼関係を深め、よき関係を構築していくことが大切である。しかし、できないことはできないとはっきりと伝えるべきである。初動対応で保護者の対応も変わってくるので誠意をもって対応してほしい。  
・チームワークや組織体制づくりのため、管理職と職員とのコミュニケーション（個人面談、グループ内相談）を引き続き行い、管理職が職員を守る姿勢で職務に励んでほしい。  
・安全面に十分配慮した保育に努めるとともに、特にバスの置き去り防止対策は、職員全員の共通理解のもと、車内確認、乗降時の人数確認を徹底してほしい。  
・保護者会のあり方として、カスタマーハラスメント等について保護者間で意見交換ができるような会となることを期待する。  
・よい子ネット等でこども園での生活をこまめに情報提供をされており、園と家庭をつなぐ大切な役割を果たしている。今後ともつながりを大切にしてほしい。  
・怪我やトラブルなど、どんなに小さいことでも報告・連絡があり、素早い対応に感謝している。  
・ここ数年、紙パンツ処理等、保護者の負担が減るように改善されていることが多く、トップダウンの速さに感心している。

<こども園関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について>

・安全安心な園づくりを基盤に、保護者への啓発活動に努め、命に係わる給食やバスの置き去りに関しては、複数によるチェック体制のもと、安全管理の徹底を図っていく。  
・こども園の情報（経営方針・保育内容等）発信が園運営の理解や協力につながっていくため、今後とも積極的な情報発信に努めていく。  
・カスタマーハラスメント等、ハラスメント防止対策として、保護者対象の研修会や、管理職と職員とのコミュニケーションの機会をタイムリーに設定していく。  
・こどもを真ん中に置いた教育・保育を展開し、人権擁護についてチェックリストを活用したり、保育者同士の話し合いの時間を確保したり、適切な保育に努める。  
・園行事（生活発表会等）については、見せる保育ではなく、普段の園生活で身に付けた力を発表できるように、子どもファーストの内容を検討していく。  
・今後とも、園と小学校との学びの連続性を踏まえ、小学校教員と合同研修・相互交流を積極的に推進していく。  
・園児が地域や団体等の行事に参加するなど、地域との交流を図っていく。

令和8年3月31日  
認定こども園ふたば 園長 足立 辰

